

18. 上顎癌，汎骨性大理石骨病に合併した難治顎骨 骨髓炎 2 症例に対する OHP 療法

湊 文夫* 中平 春夫* 市川 均*
小谷順一郎* 茂木 克俊* 金田 敏郎*
岡 達* 高橋 英世** 榊原 欣作**

高気圧酸素 (OHP) の臨床応用はこれまで、各種中毒症、局所的乏血性疾患、全身的乏血性疾患、ガス塞栓症、難聴、悪性腫瘍、感染症等の広い範囲に適応されているが口腔外科疾患に対する使用報告は殆んどない。今回我々は頑固な慢性感染症を併発した上顎癌、大理石病の 2 症例に高気圧酸素治療を併用して重篤なる感染を寛解せしめたのでその臨床経過と治療概要について報告する。

症例 I. 63 才，男子。臨床診断：上顎癌（扁平上皮癌）上顎骨骨髓炎。

昭和 51 年 2 月左眼窩下部の疼痛を主訴として当科受診，精査の結果，上顎癌（扁平上皮癌）と診断される。療法として左上顎洞開洞術，化学療法，放射線療法を施行した。各種療法にも頑固に抵抗し寛解が得られなかったがその経過

中に上顎骨骨髓炎を併発した。特に緑膿菌感染があり，口腔左耳前部の瘻孔よりの排膿が顕著であったが，OHP を主体とする治療により改善を得ることができた。

症例 II. 17 才，女子。臨床診断：汎骨性大理石骨病，下顎骨骨髓炎。

本症例は約 3 年前，下顎部に瘻孔を形成，某市民病院を受診し下顎骨骨髓炎の合併と診断される。その後症状は一時的に軽快するもしばらく後に同部に数個の瘻孔が出現し自然排膿を認めるようになり当科を紹介され受診した。下顎骨は全域に亘る骨髓炎で下顎部皮膚には数個の瘻孔があり顕著な排膿が認められた。起炎菌は緑膿菌，大腸菌などが検出されたが OHP，各種抗生剤の併用により一時的寛解を得た。

* 名古屋大学医学部口腔外科

** 名古屋大学高気圧治療部